

お薦めサイト

① ルアンナムター
多様な山岳少数民族が伝統的な文化を守って共存する。

② ルアンパバーン
14世紀建国のラーンサーン王国の首都で伝統文化の中心。1995年に世界文化遺産に登録される。

③ シエンクアン
先史時代の巨石文化がジャール平原に点在する。16世紀には仏教芸術が開花した。

④ フアバン
ジャール平原に先行する先史時代の遺跡、少数民族の文化が残る。

⑤ ビエンチャン
1560年ラーンサーン王国の首都となる。コロニアル風の町並みと伝統様式の寺院が調和。

⑥ カムアン
ラーンサーン王国以前の10世紀頃まで、シコタボーン王国がセバンファイ川に都を構えていた。

⑦ サワナケート
ラオス中部は稲作に適し、古くから集落が発展し、仏教と仏塔崇拝が盛ん。

⑧ チャンパサク
かつてクメール文明に属し、世界文化遺産のワットプーとクメール遺跡群を有する。

旅の基本情報

正式国名： ラオス人民民主共和国
(Lao People's democratic Republic)
面積： 約24万平方キロメートル（ほぼ日本の本州の広さ）
人口： 約758万人（2023年推計値）
首都： ビエンチャン
気候： 熱帯モンスーン気候
緑の季節（5月～10月）、爽やかな季節（11月～4月）
民族： ラオ族を含む50民族
宗教： 仏教（国民の約67%）、精霊信仰など
公用語： ラオ語
使用言語： ラオ語、タイ語、英語、フランス語など
時差： 国際標準時+7時間（日本から2時間遅れ）
通貨： キープ(Kip)
電圧： 220V/50Hz
通信： 主要都市では電話、携帯電話、インターネット可
ビザ： 国際空港と国際国境で入国時にアライバルビザ取得可
（日本国籍で30日間いないの観光はビザ不要）
空路入国： 国際空港（3ヶ所）、ビエンチャン（VTE）、ルアンパバーン（LQP）、パクセ（PKZ）
バンコク、ハノイ、シンガポール経由ほか
陸路入国： タイ、ベトナム、中国、カンボジア

詳細については

www.lao.jp (日本語)
www.tourismlaos.org (英語)
www.ecotourismlaos.com (英語)

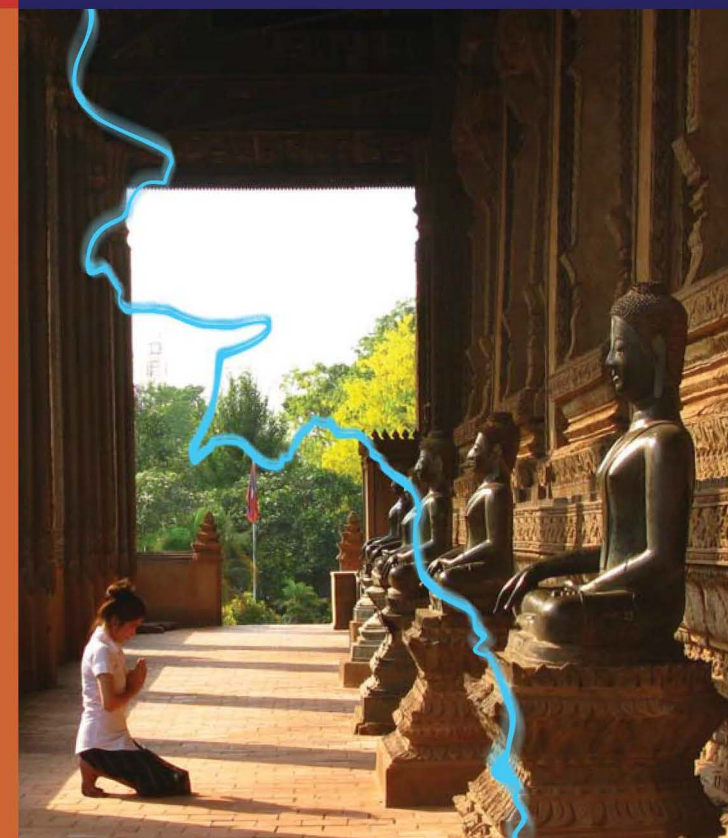
ラオス文化観光省
観光マーケティング・プロモーション局

P.O. Box 3556, Lane Xang Avenue, Vientiane, Lao PDR



文化と文化財

ມໍລະດົກ ແລະ ວັດທະນະທຳ





文化と文化財

ມໍລະດົກ ແລະ ວັດທະນະທຳ

多様な文化が融合し、幾多の文化財が全国各地に残る。

ラオスは49の民族からなり、その文化や文化財は多様だ。インドシナ半島には数千年前から人類が住み着き、北東部には先史時代の遺跡もある。

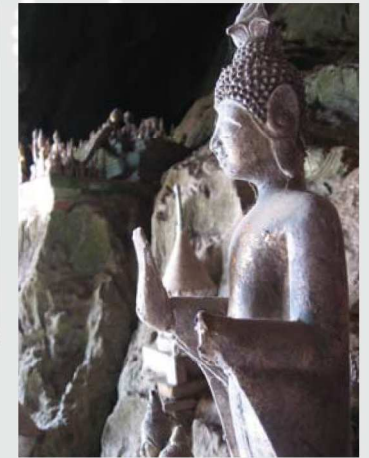
だが、ラオスをラオスたらしめているのは、派生の民族も含むラオ族の存在だ。ラオ族はアルタイ山系を起源とし、紀元前後から現在の中国雲南省を経て徐々に南下し、ムアンと呼ばれる集落を構成しながら、14世紀には現在のラオスの版図にラーンサーン王国を築いた。中国では明朝の少し前、欧州ではルネッサンスが始まる時代だ。その間、起源を同じくするタイ族、南のクメールとの勢力争いや共存共栄の絵巻物が繰り広げられた。ラオ族の王もクメール帝国で学んだ。

ラオスを語る際、鍵となるのはこの地域を結ぶ動脈であったメコンだ。水運は文化、ヒンズーや仏教を伝え広めた。豊かな水は農耕文化を育み、自然に対する畏敬の念から発したアニミズムはヒンズーや仏教にも溶け込んだ。一方で、高原や丘陵地帯に暮らす少数民族とは平和共存し、それぞれの文化を尊重しあってきた。今日見られる多様で豊かな文化や文化財は、これらの長い民族史の産物だ。



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6

1. ルアンパバーン様式と呼ばれる優美なシェイプを持つ古刹ワットシェントーン。(レアンパバーン)
2. 仏塔信仰は連綿と続いてきた。タートルアンはラオス最大の仏塔。(ビエンチャン)
3. 幾千もの仏像が安置されたメコン河畔のバクラー洞窟には参拝者が絶えない。(レアンパバーン)



4. クメール時代、ヒンズー寺院として山の中腹に建立されたワット・プー。巨大な人造池、バライは今も水を湛える。(チャンパサク)

5. 49の民族が共存するラオス。それぞれの衣装は民族のアイデンティティ。

6. ジャール平原の謎に包まれた石壺。巨石文化の遺構。(シェンクアン)

(表紙) 古くから仏教文化が花開いたラオスでは、今も日々祈りが捧げられる。(ビエンチャン)